

1. 過去1年に新たに取組んだ取組の概要

- ・ 三重県内のある市町では、ごみ減量施策として「ごみ減量リサイクル推進協議会」を発足し、「ごみ減量リサイクル推進店制度」を開始。レジ袋有料化促進のため、参加する店舗の数・種類にこだわらず、市の広報やホームページでの周知を行い、未参加の店舗には直接事業所へ訪問し、協議会への加入促進等を行っている。なお、スーパーマーケットとその他の業種とで特に異なる対応等はない。（注：三重県では市町が主体となってレジ袋有料化に取り組んでいるため、ある市町での事案を元に回答。）

2. 当該取組の関係者及びその役割について

- ・ 三重県では「ごみゼロ社会実現プラン」を平成17年3月に策定し、ごみゼロ社会（循環型社会）の構築に取り組んでいる。レジ袋有料化はごみ減量を促し、ごみゼロ社会の実現に沿うものであることから、市町の取組をごみゼロ社会実現プラン推進モデル事業として支援した。平成19年度の伊勢市での導入を皮切りに、現三重大学副学長の積極的な働きかけもあり、協力事業者、市民団体、住民、行政による協定に基づく取組として普及してきた。取組の結果、現在、県内29市町のうち28市町において協定締結方式が行われており、残りの1市町でも事業者の自主的な取組からレジ袋有料化が導入されている。

3. 当該取組に対する評価について

- ・ 上記記載のとおり、三重県は「ごみゼロ社会実現プラン」に基づきごみゼロ社会の実現に向けた取組を行っており、レジ袋有料化はその中の取組の一つである。ごみゼロ社会実現プランに掲げる目標はまだ達成できていないものの、レジ袋有料化の取組が県内全市町で実施され取組が定着したことから、一定の成果があったものと考えている。

4. 当該取組実施時の苦労点・課題について

- ・ 上記の「2. 当該取組の関係者及びその役割について」においても述べたとおり、協定締結方式で取り組んでいるため、行政以外の協力をスムーズに得ることができた。このため取組に関して特に苦労した点等は見当たらない。
- ・ 課題について、顧客サービスの向上や競合他社との差別化を図るため脱退する事業者があること、新規協力者（他地域（特に県外）からの新規出店者やドラッグストア、ホームセンター等）の参加が増えない点が挙げられる。